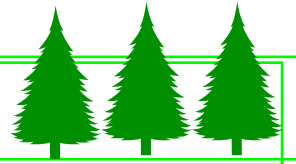




みつぎ便り



第224号 5月号 令和7年5月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ジグモ（地蜘蛛）

地蜘蛛は日本全国に生息するクモ類の一種で、雄は体調十五ミほどで雌はそれよりやや小さく、顔の正面に一对の太く黒光りする上顎（うわあご）という付属肢がある。上顎の下面には長く鋭いサーベルのような牙を持ち、昆虫類とは異なり、足が八本でサソリやムカデなどと同じ仲間です。

巣は樹木の根元、民家や神社の外壁や公園などに作り、見次公園では北側のニリンソウの咲く区域の木杭などに見られます。地中から壁や木の幹などに沿うように細長いトンネル状の巣を張って、地上に出ている部分にダンゴムシやワラジムシなどの獲物がかかると巣の内側から現れて強力な牙で噛みつき、素早く仕留めて居住部分に運んで食べます。この際に引き裂かれた巣は食後に残リカスを排泄して修復されます。

そうした残忍な習性や外見的特徴から日本古来より妖怪や鬼に例えられ、多くの書物や浄瑠璃及び歌舞伎など日本の文化芸能に登場し、悪のイメージを背負って現在まで生存してきた生物なのです。

（昭）



シモツケ

淡いピンク色にふわつとした花姿に優しさを感じさせられます。バラ科シモツケ属に分類され、落葉低木の一種で別名ホソバシモツケ、キシモツケとも呼ばれます。

中国名はしゆくせんきく（肃線菊）で、和名のシモツケは最初に下野国、現在の栃木県で発見されたことに由来します。枕草子にもその名が記されています。



シモツケの花言葉は努力、自由、気まま、無駄、無益です。無駄、無益というのはどうしてなのか気になりますね。実はこれはシモツケの中国名肃線菊にまつわる話から来ている。父思いの少女の伝説で、無益な戦いは無駄というお話です。今の世、考えさせられます。（千）

しもつけの 花と見るこそ

かひなけれ 人の問ふべき

みかはと思へば

和泉式部続集